

間々川

一九七六年八月十五日

◆天気(曇)

大平温泉で佐原沢へ入るパーティと別れて沢に入る。このところの雨で水量は多め、沢の水も少し濁っているようだ。

沢に入るとすぐF1火焰滝四〇㊦である。順層の滝で沢身の方がホールドも多く楽のようであるが、今日は水量もちよつと多いので左岸の沢身より少し離れた所を直登する。すぐまたF2五〇㊦である。不安定な草付に足をとられながらも樹林帯まで登り、沢めざして下る。すぐまたF3で二〇㊦。今後の前は前二つより更に悪い。右岸のここだけ樹木の生えた所をほとんど樹木だけを頼りに高捲きである。この三つの滝が間々川のハイライトのようで、これを越えると小さなナメがあるのみでしばらくは平凡な沢となる。

藤十郎と不忘閣ヒュッテを結ぶ登山道を確認して更に遡行を続ける。小さな滝を三つ越えてF6一〇㊦に着



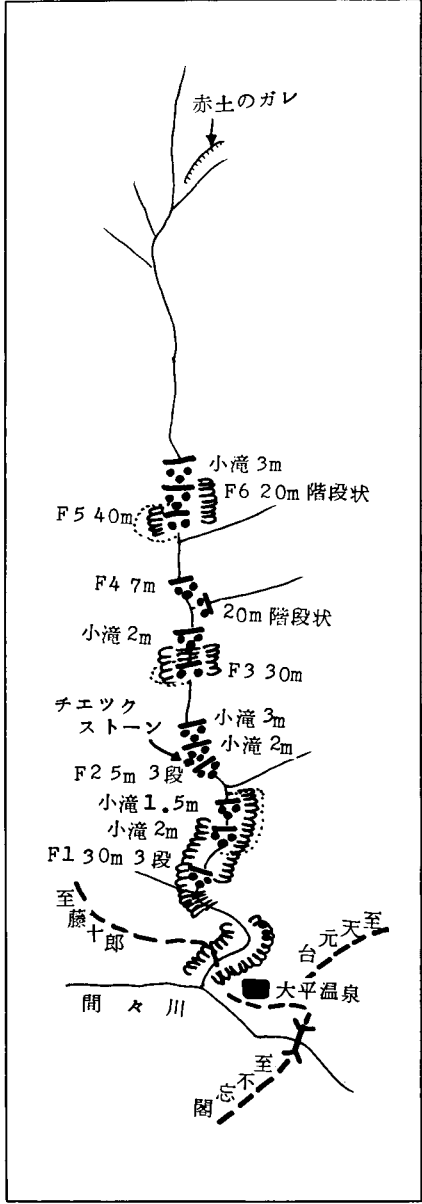
間々川の源流部

く。左岸を高捲きして簡単に越えるが、ママ河原より上流ではこれが最大の滝である。

一二時に二俣に着く。右俣の方が水量も多くこちらに入る。小滝が三つ連続しているがいずれも簡単に直登する。もう滝もかからなくなり、水量も減り、岩にコケがついてきて沢も終わりだと感じさせる。

一二時五〇分、沢は細い流れとなつてヤブの中に続いているのを見てヤブこぎに入る。一時間で弥兵衛平にとび出す。

(記・)



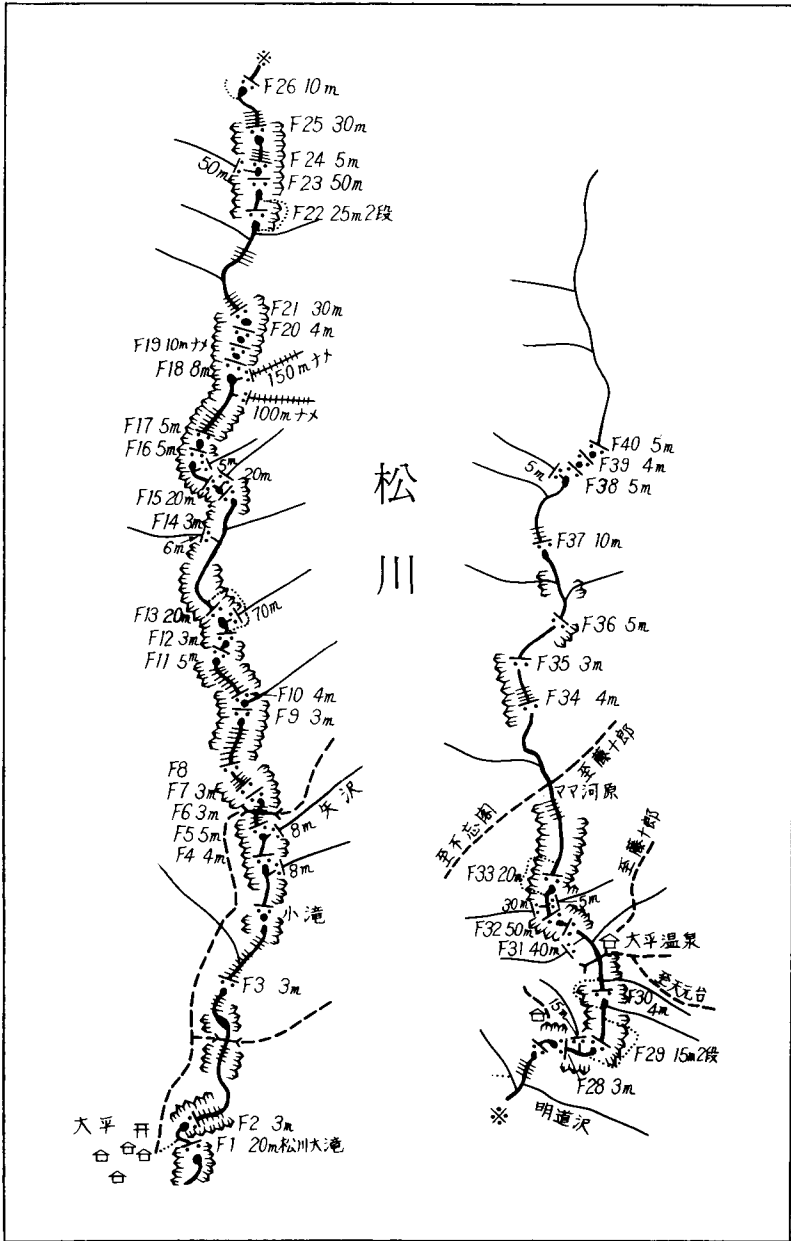
佐原沢 (作図:)

(タイム)

大平温泉八・五五—ママ河原一〇::四〇—二俣一二::〇〇—沢終了一二・五〇

(追記)

間々川は松川の上流部にあたる。溯行図はあわせて一枚の図として表示した。



松川，間々川（作図：